

第4回「(仮称) 市民公益活動推進のための基本指針」検討委員会議事録

I 日 時 平成18年8月29日(火) 午後5時から午後7時10分

II 場 所 市役所6階会議室

III 出席者

○検討委員 9名

荒木昭次郎委員・福島貴志委員・中島久美子委員・村山知之委員

安達由美委員・丸山鶴雄委員・森山弘子委員・鳥飼吉継委員

益田香代子委員

○事務局 市民協働課長以下職員4名

IV 議題内容

○NPOとNPO法人について

○市民活動団体間の連携

○市民活動団体の2つの型

○行政と市民活動団体との関係

V 議事録

NPOとNPO法人について

- ・NPO自体は、民間の非営利組織全てであり、その中で、'95年の阪神淡路大震災を受けて、NPO法が成立した。
- ・NPOの主な収入として、会費・寄付・事業収入などがあるが、利益分配(株式会社での配当)をせず、次の事業活動の資金に充てている。
- ・民間のボランティア団体では、不動産取得や行政との契約等において、法人契約を結ぶことが出来ず、代表者個人との契約になり代表者に大きな負担がかかり、手続きが煩雑である。
- ・法人格を取得させることで、法人として契約を結べるようになり、労災や社会保険の加入も出来る。
- ・会計・活動組織形態は同じである。
- ・NPO法制定後に制定された、介護保険法や障害者自立支援法では、NPO法人が指定の事業者になれる事が記載されている。
- ・法人格取得で、信頼性が高まる可能性がある。
- ・NPO法人になることで
 - 1、社会的信用を得られるという特典がある。
 - 2、契約を結ぶ事で、きちんとした事業展開ができる。
 - 3、指定事業者になれる。
 - 4、国の補助金(補助事業を申請した場合)がもらえる場合がある。

- ・同じ品物を売る場合、ボランティアが多いNPO等の団体に対する信頼問題がNPO法人の組織維持にとって重要なのではないかな。
- ・ミッション（何のための活動か）を周りの方々に知ってほしいし、活動している本人が自分たちのミッションを忘れずにいることが、一番大事なことである。
- ・色んな活動をしていると、本来のミッションがぶれてしまう事がある。
- ・公益性を前面に出したミッションと社会的公益性を高めるミッションの事業とでは、ミッションの中身の度合いが違う（公益と共益の違いがある）。
- ・法人化するメリットの点から、法人格取得に向けての話し合いを組織の中で行っているが、人手不足などで法人格取得が保留になっている。
- ・自分たちの活動に対し「こんな事をやってみたら」とか「こんな事をやってほしい」などのお話や相談がある。
それに対しやってみたいという思いはあるものの、それを実行するための知識不足、人手不足などで実施に踏み切れずに、いつも悩んでいる。
- ・地縁型の市民活動もNPO法人もミッションとしては大きな違いはない様に思う。
- ・活動の展開の仕方、ルールの中身が少し違う。やっている事はオーバーラップしていると考えられる。
- ・自分達のグループはいまだ法人格をもたず、それが必要な規模の活動はしていない。
- ・ミッション（社会的使命）とパッション（情熱）とアクション（行動）がNPOに必要な要素といわれている。
- ・全ての団体が活動を大きく活発にする必要もなく、小さな活動でも小さいながらの意義を見出すところもあるので、それぞれに身の丈に合った活動を行えばよいと思う。
- ・NPOは活動する上で、必要な収入がないといけませんが、企業と違い、利益を分配せずに次の活動のために回す。
手伝ってくれた人には一緒にやった喜び、満足を配当することになる。

ネットワークについて

- ・NPO活動をする上で、信頼と同じく「ネットワーク」も今後キーワードになってくるのではないかな。
- ・色んな団体と協働し、一緒に活動して幅が広がる。
- ・全てを自分達でやってしまう必要は無く、特定の活動を必要とする団体に、その活動を行っている団体を紹介し、団体同士がつながり、お互いの活動が活発になればいいのではないかな。
- ・自分たちの活動そのものがやや停滞気味であるため、ネットワークの必要性を強く感じている。
- ・これからの地域発展や地域が動いていくために、中心にあるのはネットワークであり、お互いの情報を交換しあう事が大事。

- ・人と人とのつながりが希薄化している中で、ネットワークをどう活かせるかは重要だと思う。
- ・各世代で価値観が違い、地域がつながるのが難しい現状である。
- ・地域に対して自分たちの活動情報の発信が不足していると思う。
- ・地域とNPOが協働し、情報を共有すれば、地域の活性化が出来ると思う。
- ・今の社会は個人が他者と協力・連携して社会を作っていこうとしない“砂粒化”している。
- ・人と人とのつながりが希薄な中で、ネットワークを図らなければいけないのは難しい事である。
- ・活動情報を発信し、それに興味を持った人たちが集まるしくみが必要ではないか。
- ・同じ興味を持った人たちを集め、つなげるための情報の発信の仕方や、参加しやすい門戸の開き方などの具体的方法がわからずに悩んでいる。
- ・アメリカ人の一生涯での引っ越し回数は平均17.5回、イギリス人の場合は10回程度、日本人は平均6.5回だそうである。
- ・引っ越し回数が多いアメリカでは、コミュニティーの場で気楽に話しかけあっている。気楽なコミュニティーを作り上げていくことについては、日本の数段上を行っている。
- ・日本では集合住宅でも、隣人と顔を合わせる機会を作らない限り接触はなく、人と人とのつながりが充実していかない傾向がある。
そのような社会状況の中で、良い社会を作るということは、良い人間関係を作ることでもある。
- ・日本も、昔は農村社会であったため、濃密な人間関係が築かれていたが、今では農村社会でさえも、生活様式の変化に伴って、人間関係がスムーズに行かなくなった地域もある。
- ・協働とは、ある目標を達成するための手段であり、目的ではない。
- ・他者と協力連携するためのつなぎ役は目標であり、皆がその目標に共感できるかが重要である。
- ・皆が目標に興味を持つことができ、誰からも強制されずに、自由に活動に係わる事が出来ればいいのではないか。
- ・自由に参加して、自分が出来ることを自由を選んで活動をする事を誰もが認めあう事が必要ではないか。
- ・目標を共有して活動を展開していくことで、ネットワークをつなげ易い事になるように思える。

市民活動団体の連携・協働

- ・市民活動には、地縁型とテーマ型の2つの型がある。
- ・テーマ型は、ある目標を持って活動している団体であり、広がりやすい側面がある。
- ・その一方で、目標を出していかないと活動が広がっていかない。

- ・地縁型は、地域に根ざした活動団体。

(テーマ型同士で何が連携できるか?)

(テーマ型・地縁型は、どのような領域において、協力・連携出来るのか?)

- ・どちらの型でも、目指す目標を皆が認めるかどうかが問題である。
- ・いい事をしていると皆に認められるのが、共通の土台にならないと活動していけないのではないか。
- ・例えば、町内清掃等で、自分の敷地プラス1mをして下さる方がいるが、それをおせっかいと思わず、「いい事」だと皆が思える社会になればいいと思う。
- ・相手の事を考えることを皆が「いい事」と思える社会になればよいと思う。そのためにも、教育・躾の段階から、教え伝えていかなければならないのではないか。
- ・以前は区役で当然であった事が、ある時期から人が集まらず、出てこない人にはお金を支払ってもらふ事にすると、お金で済ませようとする傾向になってきている。
- ・夏休みに、子どもを集めてボランティアで公園清掃を企画したところ、「何で掃除をせないかん」と「僕は週に1回しか公園に来ないのに...」「公園の清掃することなんて聞いていない」と反論する子どもがいた。
このように、今の社会には色々な考えを持っている子どもがおり、そのことは、その様な大人がいるということでもある。
- ・自分の利益のあるところにはくっついていく傾向が今の世の中にはある。
- ・先日オオトカゲが住宅街に逃げ出したニュースをテレビで見たが、昔は地域で捕まえていたのが、今日では行政がしてくれるのが当たり前となっている。また公園清掃も業者がしてくれるのが当たり前と思っている。
- ・行政がやるという事は、そこに税金投入をしている事を市民がわからないといけない。
- ・行政にお金がないのは、自分達が今まで行政に頼りすぎていたツケもあるのではないか。
- ・自分達でできる事は自分達でやらなければならないという事を、認識していかなければならないのではないか。

(他の団体・組織と連携した、これから連携したいと思っておられるところはあるか?)

- ・例えば、商店街や小学校に自分たちの活動を受け入れてもらうためには、地域に知ってもらい、理解者を増やす必要がある。
そしてそこにお互いにメリットがあれば、一緒にやることで互いに発展できるのではないか。
- ・メリットも必要だが、そこに（地域に）愛着を持ってもらうことも大事なことはないだろうかと思う。
- ・愛着があれば、自分勝手にゴミを捨てる人もいなくなるのではないか。

- ・住民の方がそこに愛着を持ってもらうため、我々（企業）も地域と協働で何かやっていきたい。
- ・自然に子どもが入ってこられる環境が大事であり、気持ちが通うボランティアが必要。
- ・自分達は街中清掃をやっているが、一緒にやっていく事で地域の広がりを目指したい。
- ・テーマを持って、地域や行政と連携する事で、広いサービスにつながっていく。
- ・ネットワークを形成するにあたって、目標が達成すれば、一度きりの関係でもいいのではないか。
- ・いつも一緒では互いに疲れたりしてしまう。
- ・人と人が心と力を合わせて、助け合うのが、基本にないといけない。
- ・何故、区役が“苦役”と受け止められるのか。
- ・苦役となった理由は
 - 1、強制的に何かはたらいっているからではないか。
 - 2、今の社会は、他者が提供してくれるサービスを受けないと生きていけない社会である事を理解していないから。
- ・市民が税金以上のサービスを享受している事を、行政は市民に知らせる必要がある。そのことを言わないでいたので、行政依存型人間を作り出してきた。
- ・一人では生きていけないという経験を子どもたちがしないまま育ってきている。皆で協力すればこんなに素晴らしい成果ができるといった体験を積み、それを大人たちが率先して手本を示すことが、協力連携を促進していく次世代の担い手を育てることになるのではないか。
- ・我々は場や知、技、労力、時間の提供など、何かのために提供すべきものを沢山もっているが、出来ない事をやらされるので苦役になる。
- ・自分の余った時間を地域へ使うことを、昔の人は知っていたが、今の日本人は知らない。
- ・目標を明確に示し、目標達成のために、自分が出来る事を考えてもらい、実際の行動に移してもらうことが大事。そのためのファシリテーターがいて、ファシリテートしてくれるようにしないといけない。
- ・目標達成のための協働を人々がやっていくことが、現代社会では避けて通れないという事を、わかりやすく示していくことが大事ではないか。
- ・市民活動団体間の連携は、民・民協働
- ・行政と市民活動団体が協力するのは、公・民協働
- ・公・民協働では、民間は人的資源や技能などを提供し、その中で公は活動の何%かを手助けし、活動する上で目標達成のためのルール作りをやる。
- ・活動する上で、リードしていく仕掛け人が必要であり、それを人生経験豊富な人がやってくれれば、結構人は集まってくる。

100人のうちに2,3人その様な人がいれば、100人の団体も動かせる。

- ・社会貢献活動で仕掛けをする人が、活動できる人を発見し、リーダーになってもらう。

行政とNPOの関係で何が問題で、問題を取り除くにはどうすればいいのか？

- ・行政からの説明だけではなく、住民からのアイデアを寄せるシステムがあればもっと効果が出るのではないか。
- ・行政は、やらないでいいことはやらない。
どんどんスリム化していく方向へ進むのが望ましい。
- ・民でやれることは民にやってもらえば、民間企業の活性化につながり、自分達で出来ることが増えてくる。
- ・行政の手続きを簡素化する必要がある。
例えば、後援依頼一つとっても時間がかかり過ぎる。
- ・他の校区での活動を知らない。
行政は情報の発信力が大きいので、その様な情報を発信してもらうだけでいいのではないか。
- ・行政は、市民が発信している情報をアンテナを高くして情報をキャッチできるようにすることが大事ではないか。
- ・最近私は、コミュニティーボードを使うようになったが、一般の市民がどの程度使っているのか疑問である。
- ・色んなところを見直して使いやすくし、それを受け手も活用するようになっていけばいいと思う。
- ・行政は市民の生活の知恵をよりの確に把握して、その知恵を取り込んでほしい。
- ・行政は市民が知りたい事を把握して広報しているのか疑問である。
もっと魅力ある広報誌を作ってほしい。
- ・行政が持っている情報は市民の財産である。
- ・市民活動情報センターを作り、そこで各地区でどのような活動をしているかなどの情報も集めて、その情報を市民に提供・発信してはどうか。
そのセンターに、各市民活動団体の方々にボランティアで相談窓口にでてもらえれば、人件費もあまりかからないのではないか。
- ・行政が、市民を啓蒙・啓発しがちであるが、行政も市民も自己啓発を行える様な場の提供も必要である。

次回予定

- ・今回の議論を文章化したものを作成し、今後の方向性を形作っていく。
 - ・次回（第5回）9月11日（月）午後5時～ 市役所本庁6階会議室
- 前回の議論を振り返って
- 活動推進への支援について